

## 2024年度活水女子大学入学式 式辞

学長 広瀬 訓

活水女子大学に入学された新入生の皆さん、入学おめでとうございます。ご家族並びに関係する皆様方にもご列席を賜り心より感謝を申し上げます。世界に大きな混乱をもたらしたコロナウイルスの感染拡大も落ち着きを見せ、今日の入学式も、最低限の制限のみで開催することができました。キャンパスにおいても、対面での授業、様々な実習、部活動やサークル活動、海外研修や留学など、ほとんどの活動が再開され、皆さんもこれからのキャンパスライフへ、大きな期待と希望を持って入学式に臨んでいるものと思います。

もちろん、「大学」は、新入生の皆さんにとっては、まだ知らないところ、未知の場所であり、そこで出会うのは未知の体験のはずです。皆さんは、期待と同時に、これからの大学生活に対して、不安を持っているかもしれません。しかし、これからの大学生活、主役は皆さんです。皆さんが大学生活でわからないこと、困ったことがあった時には、遠慮なく教員、職員に尋ねてください。私たち、教員、職員は、皆さんの力となるために全力を尽くします。

さて、今、私は、大学生活の主役は、皆さん方、学生であると言いました。それだけではありません。皆さんの人生の主役もまた、皆さん一人一人なのです。私たち、教員、職員は、これから先、皆さんに様々なことを伝えます。皆さんの疑問、質問に答えます。皆さんが悲しんでいる時に慰め、皆さんがしり込みしている時に励まし、皆さんが嬉しい時に一緒に喜ぶこともあるでしょう。あるいは皆さんが間違えそうな時に厳しく叱ることもあるかもしれません。しかし、皆さんの代わりに皆さんの人生を生きることは、当たり前ですが、できません。

皆さんは、自分の人生を自分で歩いていくことになります。自分の人生は、自分で決め、自分で責任を取る以外にありません。これから先、皆さんは、大学で様々な授業を選択し、資格を取り、職業を選んでいくことになります。また、結婚し、家庭に入る人もいるでしょう。その人生の一つ一つの選択は、最終的に自分で決めるしかないのです。もちろん自分で決めずに、誰かに「決めてもらう」という選択もありますが、誰に、どうやって決めてもらうかを選ぶのは、結局は自分です。そして、その結果に対して責任を負うのは自分しかいません。私は新入生の皆さん一人一人が、自分の人生の主役であるという自覚を持ち、自信を持って自分の道を選び、進んでいけるような人になって欲しいと願っています。

活水学院は、145年前に、エリザベス・ラッセル先生という、アメリカ人の女性宣教師によって建てられました。ラッセル先生は、日本にキリスト教を伝え、日本の女性に教育の機会を作るという信念を持って、周囲の懸念や反対を押し切り、43歳で来日し、まったく初めての国で、日本語もわからないまま、到着からわずか一週間後に、一人の生徒を相手に教え始め、それから40年、この地で教育を続けました。その間、どれだけの問題や困難に直面したのでしょうか。しかし、ラッセル先生は自分の選んだ道を一步も外れずに、喜びを持って歩き通されました。それ以来、活水の卒業生には、「日本で初めて」、「女性として初

めて」と言われた方が何人もいます。それは社会的に大きな業績を残したということでもありますが、私はそれ以上に「自分の選んだ道をたゆまずに歩き続けた」という点で、ラッセル先生に続く人たちだと思います。大切なのか、成し遂げたことが大きいのか、小さいかではなく、胸を張って「これが私の選んだ道です」と言えることだと思います。その第一歩をここ活水女子大学で踏み出してもらえらるなら、これ以上の喜びはありません。

くり返しになりますが、活水女子大学の主役は、みなさん、学生ひとりひとりです。私が強くみなさんに願っていることは、一人でも多くの学生が、叶うならばこの大学で学ぶすべての学生が、「活水女子大学で学んでよかった」と、自分の選択の正しさを確信して下さることです。私たち教員、職員もそんな学生生活を支えたいと、日々努力しています。

みなさんのこれからの学生生活が、実り豊かで、喜びに満ちたものになるように、主の導きと、お守りとがありますようにお祈りいたします。

これをもって学長の式辞といたします。